

議長（高木将君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

17番川又照雄君の発言を許します。

〔17番 川又照雄君登壇〕

17番（川又照雄君） 17番川又照雄でございます。ただいま議長より発言のお許しをいただきましたので、通告に従いまして、一般質問をさせていただきます。

早いもので、新市が誕生して丸3年が経過いたしました。今、地方分権時代にふさわしい地方自治を実現していくための方策が、求められております。厳しい財政事情という危機感の中、議会も、住民代表機関としての本来の役割を再認識し、議会活性化も求められております。我が会派においても、政策集団としての意識の中、勉強会や情報交換、政策論議も活発に行っております。今後は、会派ばかりか議員全体へも賛同を求めつつ、議会運営の改善を図り、討論する議会、開かれた議会、自主自立の議会への課題解決を図り、議会活性化に向けて努力したいと考えております。私自身、さらに議員の資質向上に努力し、常に市民の声に耳を傾け、市民全体の代表である認識で、その負託にこたえるべきと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは、通告どおり一般質問に入ります。

最初に、11月24、25日の2日間、鯨ヶ丘を中心に行われた常陸太田秋まつり2007についてお尋ねいたします。

好天気にも恵まれ、予想をはるかに上回る、2日間で5万人という大変な人出になりました。関係各位の皆様のご労苦に対し、心より感謝を申し上げます。ご苦労さまでした。私自身も2日間参加して、大変満足いたしました。このイベントの中で、地域間交流ばかりか、中学生、高校生のボランティアも含めて、かなりの人材育成が図られ、今後のイベントのありようにも、地域おこしにも、大きな成果が得られたように感じました。

ここで1点目、今後の常陸太田秋まつりの継続開催について、人材、あるいは会場設営、集約規模、予算などの問題などもあるとは思いますが、ぜひ継続して欲しいと願っております。この点、常陸太田秋まつりの継続開催についてお尋ねをいたします。

また、2点目として、市内の各地区における各種イベントに対しても、今回行われた結果を踏まえて、今後、特にイベントの集約等を考えながら、この活用を図るべきだろうと思っておりますけれども、これについてのご所見をお伺いいたします。

続いて、教育関係についてお尋ねいたします。

近年、生活環境の変化によって、子供の体力は低下傾向にあると言われておりますが、1点目として、当市の現状はどうか、お尋ねをいたします。

2点目として、幼稚園、小学校における体力向上を図るためのカリキュラム等、取り組みはどのようなかをお尋ねいたします。

3点目として、そのための遊具や鉄棒等の設置は十分に対応できているか、その現況をお尋ねいたします。

次に、峰山中学校校舎建設についてお尋ねいたします。

校舎については、私個人としてでありますけれども、学校はできるだけ木造であるべきとの考えを持っております。しかし、現実には、予算面や安全性からも、それは大変難しいとされております。それも理解しますけれども、できるだけ木材をたくさん使うことは可能ではないかと思えるのでありますけれども、1点目として、峰山中学校の校舎建設の進捗状況についてお尋ねをいたします。

2点目として、地元産材を使うことの注文は可能かをお尋ねいたします。

最後になりますが、農業問題の、遊休農地と農地保有合理化事業についてお尋ねをいたします。

全国各地において、地域ぐるみの農地保全への取り組みが報じられておりますが、1点目として、本市における遊休農地をなくす取り組みの現状と問題点、さらに、今後の推進計画についてお尋ねをいたします。

2点目として、JAによる農地保有合理化事業に対し、今後、市としてどのようにかわり、また支援をしていくのか、お尋ねをしたいと思います。

以上で、1回目の質問を終わります。よろしくお願いいたします。

議長（高木将君） 答弁を求めます。産業部長。

〔産業部長 小林平君登壇〕

産業部長（小林平君） 1点目の、常陸太田秋まつり2007についての中の、今後の継続開催についてお答えいたします。

常陸太田秋まつりを鯨ヶ丘商店街で継続できないかのご質問でございますが、今回の祭りを評価いたしますと、細かい点では個々課題もあるかと思いますが、成功のうちに終了できたものと考えております。特に、商店街を利用することで、空き店舗や駐車場の利用、自家用車両の代替駐車場の確保、給排水などにかかわる課題を克服しながら、商店会や町内会の皆様との並々ならぬご協力のおかげをもちまして、祭りの会場としてのしつらえが十分に対応できたものと考えております。市民の皆様からの反応も、好感的なものも多く寄せられておまして、継続を望む声も含まれております。

これらのことを総合的に判断しながら、商店会や各町会の皆様との思いが1つになるとするならば、行政と関連の団体がそれぞれのかかわりを調整しながら、市民との協働の事業としてとらえ、前向きに対応をしていきたいと考えております。

次に、今回の成果を各地区のイベントにも活用すべきとのことに対しましてお答えいたします。

各イベントは、それぞれに実行委員会により運営されておりますので、地元の人たちの協力や参加により、その地域のイベントとして親しめるものであるとともに、イベントを行う地域における経済効果や各地区の祭りとの相乗効果、こういうものも念頭に置きながら、対策するよう努めてまいりたいと考えております。

次に、3点目、農業問題についての中の、本市における遊休農地をなくす取り組みと問

題点、さらに今後の推進計画についてお答えいたします。

当市におけます遊休農地の現状を申し上げますと、2005年農林業センサスでは、全体で691ヘクタールとなっております。内訳としましては、太田地区302ヘクタール、金砂郷地区188ヘクタール、水府地区141ヘクタール、里美地区60ヘクタールでございます。この遊休農地の解消策と有効活用施策につきましては、さまざまな手法を用いまして取り組んでいるところでございます。

まず、1番目としましては、市、県、財団法人県農林振興公社、グリーンふるさと振興機構などと連携をもって、県北地域遊休農地解消プロジェクトチームを組織し、水府地区でのパイロット事業団地内の8.5ヘクタールを耕起し、常陸秋そばを作付しております。

2番目としましては、中山間地域等直接支払制度の推進を図っておりまして、今年度については43集落、対象面積253ヘクタールの実施に取り組んでおります。この事業の内容につきましては、集落単位で組織をつくり、組織員が協働により作付や草刈り等の管理作業をすることにより、不作付地を防止し、農地の有効活用などを図るものでございます。

3番目としましては、金砂郷地区において、金砂郷地域放牧部会12名が、電気さくを使用し、1.2ヘクタールの遊休農地に牛を15頭から30頭放牧しております。また、金砂郷常陸秋そばオーナー制事業において1.3ヘクタールを、有限会社みずほ農援において10.5ヘクタールを、それぞれ常陸秋そばの作付をし、有効活用を図っているところでございます。

4番目としましては、水府地区の有限会社水府愛農会において、遊休農地11.5ヘクタールを活用し、常陸秋そばの作付をしているところでございます。

5番目としまして、太田地区においては、大門地区と河内地区にそれぞれ活性化推進会議を組織し、常陸秋そば、青大豆の生産や、そば打ち、みそづくりなどを実施する農業体験に取り組んでおります。また、市民農園として、1区画25平方メートル、60区画の利用を提供しており、それぞれ好評を得ているところでございます。

次に、遊休農地防止における基本的な推進計画としましては、農業委員会が実施する農地流動化推進事業と連携を図り、地域の担い手への農地の利用集積や、定年帰農者、新規就農者の利用促進を図ることとしております。当年11月末日現在の利用権設定状況としましては、総計で申しますと、2,959筆、面積426.4ヘクタールを数えているところでありますが、今後とも関係機関等との連携を密にし、発生を防止を図るとともに、有効活用の促進に向けた取り組みを強化してまいります。

次に、JAによる農地保有合理化事業に対し、今後市としてどのようにかわり、また支援していくのかとのご質問についてお答えいたします。

JAと連携を図りながら農地の流動化を進めておりますが、現在、有限会社みずほ農援において、439筆53.7ヘクタール、受託を行っている状況にあります。さらには、農業ができなくなってしまった農家をサポートする営農集団を早急に整備することを最優

先にとらえ、農地流動化事業を推進するとともに、国策として進められております品目横断的経営安定対策の集落営農における農地の集積や、認定農業者、あるいは地域で活動している作業受託部会、財団法人県農林振興公社との連携を図りながら、支援してまいります。

以上でございます。

議長（高木将君） 教育長。

〔教育長 小林啓徳君登壇〕

教育長（小林啓徳君） 教育関連の2点のご質問にお答えをいたします。

1点目の、本市の児童生徒の体力についてでございますが、児童生徒の体力につきましては、毎年体力テストを実施しており、その結果を分析いたしまして、各学校で体力向上に向けて取り組んでいるところでございます。

本市の体力の状況を申し上げますと、全国と同じように低下傾向でございましたが、平成17年度からは改善が見られております。平成19年度、小学校におきましては、握力とボールスローで県平均を下回っている学年もあるものの、総合的には県平均をすべての学年で上回っております。中学校でも、握力に課題はありますが、総合的に、小学校同様にほとんどの学年が県平均を上回っておる状況でございます。

次に、体力向上に向けての取り組みでございますけれども、市教育委員会といたしましては、市学校教育プランにおきまして、体力テストの結果を分析し、体力向上のための施策を講じますという学校マニフェストを掲げております。各学校におきましては、この市の学校マニフェストを受け、体力向上を重点の1つとしております。具体的な実践を申し上げますと、小学校におきましては、朝のランニングをしたり、業間の時間や放課後に自校の実態に合わせて、持久走や縄跳び、ボール運動、異学年との遊び等を計画的に取り入れ、運動の生活化を図っております。県の体力向上事業にも全校が参加し、特に縄跳びの連続8の字跳びや、一輪車スラロームでは、県でも上位の成績をおさめているところでございます。

幼稚園におきましても、体力を保育の重点目標としており、子供たちの遊びの中にチャレンジできるものを取り入れたり、保護者への啓発を図ったりするなど、積極的に取り組んでおります。

続きまして、遊具、鉄棒の設置状況についてでございますが、幼稚園、小学校における遊具や運動具の設置につきましては、園児や児童の仲間づくりや体力づくりなどのために、園児や児童数、学校規模等により、必要に応じて設置をしてきているところでございます。幼稚園につきましては、鉄棒、ブランコ、滑り台、ジャングルジム等についてはほぼ全園に、小学校についても、鉄棒、ブランコ、うんてい、ジャングルジム等についてはほぼ全校に設置されております。そのほか、平行棒、平均台、はん登棒、シーソーなどの遊具、運動具につきましても、学校規模等に応じて設置をしております。今後も、園児や児童等によって楽しく仲間づくりや体力づくりが図られるためにも、遊具等は必要でありますの

で、引き続き設置整備に努めてまいります。

続きまして、峰山中学校校舎建設について、2点のご質問にお答えをいたします。

最初に、校舎建設の進捗状況についてでございますが、今年度は、校舎建設のための設計業者選定を行うものとして、プロポーザル審査を実施し、校舎建設に当たっての校舎の配置計画や、生徒の学習等への効果を図るための施設配置、また、校舎建設に関する経済性等の提案をいただき、これらの内容を検討・審査しまして、設計業者を選定いたしております。現在、決定された設計業者並びに学校また関係課と協議を行っており、本年度中に基本設計をまとめる予定であります。

なお、平成20年度に実施設計を行い、平成21年度、22年度の2カ年での建設工事を計画しております。

次に、地元木産材を使用することについてでございますが、里美中学校においても、校舎の内部等に地元木産材が一部使用されております。学校建設資材として、木材の持つ温かみは生活する生徒に必要なことでありますし、また、市といたしましても、地場産材の積極的な導入を掲げておりますので、今後、校舎建設設計における基本設計、実施設計の協議の中で、建設費用の面なども考慮しながら、できるだけ地元産材を使用するよう検討していきたいと考えております。

議長（高木将君） 17番川又照雄君。

〔17番 川又照雄君登壇〕

17番（川又照雄君） ご答弁ありがとうございました。

1点目の、鯨ヶ丘を中心に行われた常陸太田秋まつり2007については、熱も冷めぬうちにと申しますか、地元住民に働きかけ、これは私の仮称でありますけれども、鯨ヶ丘まちづくり推進協議会を設立して、継続開催に備えるべきだと思っております。将来は、この、仮称でありますけれども鯨ヶ丘まちづくり推進協議会が自主的に取り組んだ上で、行政側もバックアップしていくと、これが大切だと思えます。この点で、ご所見をお伺いしたいと思います。

2点目の、各地区の各種イベントにも、要望としておきますけれども、自主的な取り組み、特に集約を念頭に考えるべきだということを要望したいと思っております。

教育関係の体力向上につきましては、大変理解もしましたし、安心もいたしました。今後も、常に知・徳・体のバランスを考え、努力されますよう要望いたします。

峰山中学校の校舎建設については、理解をいたしました。

2点目の、地元産材をたくさん使うということは、教育環境ばかりか、林業の活性化にもその一助になりますし、緑化意識の普及と森林環境教育の充実にも発展すると思えますが、この点での市長のご所見をお伺いしたいと思います。

最後に、農業問題の遊休農地解消と農地保有合理化事業につきましては、理解いたします。あらゆる方策を講じて、これ以上の遊休農地拡大をストップさせなければなりませんし、不在地主、あるいは非農家地主がふえているということも視野に入れておかなければ

ならないと思っております。関係機関の協力・連携と行政努力を期待し、また要望し、以上で私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

議長（高木将君） 答弁を求めます。市長。

〔市長 大久保太一君登壇〕

市長（大久保太一君） 峰山中学校への地場産の木材の使用につきましては、これまで里美中学校、天下野診療所、あるいは里美の歯科診療所等にも、地元産材をできるだけ使うという考え方で進めてきておりまして、先ほど教育長のほうからご答弁申し上げましたとおり、設計段階から、どの部分に使うかというようなことをきちっと織り込みませんと、使うといってもなかなか具体的になりませんので、その辺も含めて検討をして、使っていきたいと思えます。

さらに、森林とか環境に関しての教育に関しましては、材木を使うだけじゃなしに、やはりふだんの教育の中、あるいは市内全域での環境に対する取り組みの中で、子供たちも一緒になって学んでいくべきことだろうと思えます。参考までに申し上げますと、里美牧場等におきましては、小里財産区の皆さんが、あそこに今、山桜を植えようということでも200本手当てをし、さらにこの近隣では、源氏川の土手にもソメイヨシノを植えようということでも60本を植樹するとか、さらには水府地区におきましても、漁場を育む森づくり事業として、多くの子供たちも参画する中で下草刈り等を行っているという状況でありまして、今後とも、自然に親しむことも学校教育の中にさらに織り込んでいくことを進めていきたいと思えます。

以上です。

議長（高木将君） 産業部長。

〔産業部長 小林平君登壇〕

産業部長（小林平君） ただいま、鯨ヶ丘のまちづくり推進協、仮称というようなことでもございまして、こういうものに対して行政がバックアップすべきというようなご意見でございますが、行政主体からのイベントにつきましては、地域主導型が望まれているという中でございまして、やはり協働というような中では、地元商店会や町会の皆様方と調整しながら、今後、研究してまいりたいと考えております。